



東都の鎮護

牛嶋神社

牛嶋神社は隅田川の東岸、もと水戸徳川邸跡の、隅田公園に隣接して鎮座しています。

古くは向島須崎町にありましたが、関東大震災後、昭和のはじめ現在地に再建されました。

明治維新前は、本所表町の牛宝山明王院最勝寺が、別当として管理していました。明治初年の神仏分離後「牛の御前」の社名を牛嶋神社と改めました。

隅田川に沿う旧本所一帯の土地を昔「牛嶋」と呼び、その鎮守として牛嶋神社と称したのです。

神社に伝わる縁起書によりますと、貞観二年(八六〇年)に慈覚大師が、御神託によって須佐之男命を郷土守護神として勧請創祀、後に天之總日命をまつり、次いでこの地でなくなられた清和天皇の第七皇子貞辰親王命がまつられました。牛嶋神社の御祭神は、この三柱の神々であります。

例祭日九月十五日は、貞観の昔はじめて祭祀を行なった日であるといわれております。

治承四年(一一八〇年)源頼朝が大軍をひきいて、下総国から武蔵国に渡ろうとした時に、豪雨による洪水のために渡ることができず、武将千葉介平常胤が祈願し、神明の加護によって全軍無事に渡ることができましたので、頼朝はその神徳を尊信し、翌養和元年(一一八一年)に社殿を造営して、多くの神領を寄進させました。

さらに天文七年(一五三八年)六月には、後奈良院より「牛御前社」との勅号を賜ったといわれており、また、永禄十一年(一五六八年)北条氏直が関東管領であった時、大道寺駿河守景秀が神領を寄進しております。

江戸時代には、鬼門守護の神社として將軍家の崇敬厚く、特に三代將軍家光から本所石原新町の土地の寄進を受け、祭礼渡御の旅所となりました。現在の摂社若宮はその一部であります。

総捨権現造り、東都屈指の大社殿を誇る牛嶋神社は、氏子五十町・牛島講の守護神として、崇敬尊信をいただいております。